学習指導研究の方向　　全校研究テーマ設定の道筋

＜学校目標＞

しっかりした力

広い心

すこやかな体

＜願う子どもの姿＞

⑴筋道を立てて考える子ども
⑵主体的に判断して実践する子ども
⑶仲良く助け合う子ども
⑷良いもの、美しいものに感動する子ども
⑸ねばり強くやりぬく子ども
⑹たくましい体を鍛える子ども

全校研究テーマ

「自分で考え、友と関わりながら、確かな力をつけていく子ども」

＜学習指導研究の４つの柱＞

豊かな人間性・自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育む教育の推進

柱１　互いによさを認め合い安心して力を発揮できる学級作り。（基盤）
柱２　わかる授業をし、基礎基本の定着を図る。（基礎基本）
柱３　のびのびと自己を表現できる子どもを育む。（自己表現）
柱４　主体的に追究できる子どもを育む。（課題追究・自己実現）

＜学校目標達成に向けて大切にしたいこと＞

⑴その子の持ち味を生かす。
　①　自分の中の持ち味とふれさせる場づくり（じっくり追究）
　②　何が自分の持ち味なのかを感知する体験の積み重ね
　③　自分の持ち味に対する自信と喜びが前向きな生き方に結びついていく。
⑵原動力としての喜びを大切に
　①　自分の高まり・深まりを実感できた喜び（追究の振り返り）
　②　自分の中に望ましい新たな自分を見出すことのできた喜び
　③　自分を役立てることのできた喜び　　④友の高まりをも実感できた喜び
⑶環境の設定と教師の支援
　①　自分で考えることを保障する場や機会の設定（課題設定）
　②　共に活動をつくり出すことを体験できる場や機会の設定
　③　自分で考え、共に活動をつくり出したことを発表できる場や機会の設定
⑷つける力を明確にして、基礎・基本の確実な定着を図る。

＜指導・支援の反省＞

・　子どもの考えや願い、また、こだわりを把握し、適切な支援をすることが大切である。
・　個人やグループ、全体で課題を追究し深めていく過程でその子の考え方が深まる。
・　自分の活動や考えを振り返る場によって、自分の高まりやよさを実感し喜びになる。

課題追究を中心にした授業改善

㊟明確な支援→課題把握の場面を明確にし、追究の見通しを持たせること。
㊟明確な支援→子どもの追究場面での情報交換などの支援、力の向上や思いの高まり、考えの深まりの評価（自己・相互・教師）。

＜１９年度のグループ別学習指導研究の成果から＞

⑴人権教育
○日常生活に重ねる資料提示と授業展開の工夫。自らに重ねつつ学ぶよさ。他人事にしない。子どもの主体的な問題解決力とそのスキル育成が大切。友達や他者の生き方や考え方から、他者を理解し自分の考えに生かす。社会貢献をしてきた人の行為や気持ちの理解が大切。自作資料開発のよさ。
㊟子どもの日常に沿った問題の教材化の視点と資料化の追究。問題解決への個の考えの表出やスキルの獲得。つける力の明確化。生き方のベースである「誇り」の追究。技術の巧みさ・精微さや、気質としての気概を明確にした資料化。
⑵算数
○支援としての学習カードの意義。（自分の考え方の表現と整理。他の人にも理解できるものでもある。）学習カードの位置づけ。（子どもの課題追究の支援をするもの。）
㊟課題追究を中心とした授業改善・・課題把握→学習カード→個人追究→全体追究の道筋のあり方の研究。明確な課題把握や追究への支援（視聴覚機器の利用も）学習カードの更なる探究・・各学年での支援の具体化。（発達段階的に発展していく必要性）課題追究のためのツールであるので、課題把握後の配布が基本。カードの型（疑問やわかったこと、学習課題を書く箇所）の改善。
⑶体育
○授業の探究・積み重ねが授業学級の人間関係の向上につながり、運動に消極的だった子どもが積極的になった。勝敗のみでなく、チームワークや関わり合い、工夫の喜び等、新しい運動の喜びを獲得できた。ソフトバレーボールの運動特性やその教材化の工夫が、大きな要因になった。
㊟「もっとうまくなりたい。」と願う子への技術面での支援。運動の系統性の明確化と、それによる各学年での指導・支援の具体化。「勝つために」を願い追究し始めた子どもたちへの支援。子どもの発達段階に応じた新たな運動の教材化と、その運動特性の研究。

＜日常的活動より＞

○　次第に生き生きのびのびと自分の思いや考えを表現できる子どもが増えてきている。
○　学習・児童会・行事に、子どもが主体の活動が多くなる。
○　自らの行動を決め、創り、それに集中する姿が見られる。
○　仲間との支え合いを実感できた姿が見られる。

児童の実態より